



吉見町長 宮崎 善雄氏

町長のメッセージ

埼玉県のほぼ中央に位置し、荒川と市野川の豊かな流れに囲まれた吉見町は、肥沃な大地を持つ穀倉地帯と県立比企丘陵自然公園の一角を併せ持つ、豊かな自然と四季の彩りに満ちた町です。また、国指定史跡「吉見百穴」をはじめとする貴重な文化財が数多く残された歴史の宝庫でもあります。

人々の交流も盛んで、吉見町の秋の風物詩であります「町民体育祭」や「吉見まつり」は毎年多くの方で賑わいます。「歴史・自然・人々のふれあい」これが吉見町の魅力です。

今後も、町民一人ひとりが「しあわせ」を実感できる「小さくても輝く吉見町」「田舎でも誇れる吉見町」の実現に向け、各施策に取り組んでまいります。

はじめに

吉見町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、東は鴻巣市と北本市、西は東松山市、南は川島町、北は熊谷市に接する東西約7km、南北約8km、面積は38.64km²のまちである。荒川、市野川が流れ、西部には県立比企丘陵自然公園に指定された丘陵地が広がるなど緑豊かな自然に恵まれている。

町に鉄道の駅はないが、路線バスなどをを利用して、東武東上線東松山駅やJR高崎線鴻巣駅などにアクセスできる。町の歴史は古く、古墳時代後期の横穴墓群である吉見百穴をはじめ多くの史跡が残っている。1954年に東吉見村、西吉見村、南吉見村、北吉見村の4ヶ村が合併し吉見村に、1972年に町制を施行し吉見町となり現在に至っている。

関東平野の中央に位置することから、気候は海や山の影響を受けることが少なく、四季を通じて穏やかで過ごしやすい土地である。町では積極的に移住、定住支援を行うとともに、企業誘致にも力を入れている。

町に残る多くの史跡

吉見町には、多くの史跡が残っている。その代表が国指定史跡である吉見百穴。古墳時代の後期に、丘陵や台地の斜面を掘削して横穴を造り墓としたもの。百穴が分布する一帯は凝灰質砂岩とよばれる比較的掘削に適した岩盤が広がっており、当時の人々は掘削するのに適した場所を探して横穴墓を

造ったものと考えられている。

江戸時代からすでに「百穴」とよばれ、不思議な穴として興味の対象となっていた。1887年に全面発掘が行われ237基の横穴が確認された。当初は住居として造られたという説が有力であったが、大正時代に出土品や横穴の構造から墓穴であることが明らかとなった。

いくつかの横穴墓にはヒカリゴケが自生している。ヒカリゴケは国指定天然記念物で、外から入ってくるわずかな光を反射して黄緑色に光って見える。関東の平野で見られるのは極めて貴重である。

吉見百穴の他にも、奈良時代の高僧行基が觀世音菩薩の像を彫って岩窟に納めたことが始まりといわれる吉見觀音が有名である(表紙写真)。本堂と三重塔は建物としても350年の歴史を持ち、それぞれ県指定建造物に指定されている。近くにある息障院は、源範頼(頼朝の弟で義経の兄)の居館跡と伝えられている。範頼の没後は子孫が4代にわたり居



国指定史跡「吉見百穴」

吉見町概要

人口(2020年11月1日現在)	18,666人
世帯数(同上)	7,802世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	50.9歳
面積	38.64km ²
製造業事業所数(工業統計)	55所
製造品出荷額等(同上)	1,354.3億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	103店
商品販売額(同上)	616.4億円
公共下水道普及率	25.9%
舗装率	62.7%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 関越自動車道 東松山ICから町役場まで約7km
- 圏央道 川島ICから町役場まで約8km

住し、吉見氏を名乗った。

また、戦国時代に比企丘陵の先端に築かれた松山城は北武蔵屈指の城といわれ、同地区の要所であったことから、城をめぐる攻防は激しく支配者は頻繁に変わったとされる。現在、松山城跡として国指定史跡となっており、当時の城の特徴である、曲輪や空堀などが良好な状態で残っている。

いちごの里

吉見町は「いちごの里」として、広く知られている。吉見町のいちごは県内一の生産量を誇り、シーズンである12月から4月にはいちごを買い求める人で直売所に行列ができる、町の風物詩となっている。

稻作と養蚕が主流だった吉見町でいちご栽培が始まったのは、昭和30年代。荒川と市野川に挟まれた肥沃な土地は、甘くておいしいいちごの生育に適している。当初、数軒でつくっていたが、ハウス栽培の普及とともに数が増え、恵まれた土壌と気候、栽培技術の高さで県内一の生産量を誇るようになった。

朝摘みのいちごは、JA吉見直売所などで買うことができる。同じ敷地にある道の駅「いちごの里よしみ」では、吉見産いちごを使用した「いちごのしづくサイダー」、「いちごジャム」、「いちご生どら焼き」などが販売されている。いちご狩りを楽しめる農園や県道沿いに直売所を開く農園もある。町のキャラクター「よしみん」はいちごの妖精で、市民に親しまれている。

多くの企業が立地

吉見町は、東京などの大消費地に近いことに加え、関越自動車道東松山ICから約7km、圏央道川島ICから約8kmと高速道路ネットワークを利用できることから、飲料、食品、自動車部品などの大手企業に加え、様々な業種の企業が立地している。近年では、首都圏全域への広範囲な配送が行えることから、大型物流センターの立地が相次いでいる。

現在、東部の大和田地区で産業団地の計画が進められている。埼玉県では高速道路ネットワークを最大限に活かすため、ICと産業団地などを結ぶアクセス道路の整備を進めており、町内を横断する県道東松山鴻巣線がその対象となっている。4車線化を進めることにより、アクセスの改善が期待されている。

吉見町は自然に恵まれ、多くの史跡や文化財が残る歴史の町であるとともに、産業面でも優位性を持っており、小さくても輝くまちとしてバランスの取れた発展が期待されている。

(吉嶺暢嗣)



いちご直売所の風景